

令和5(2023)年度 下都賀地区特別支援教育研修会を開催しました

日時 令和5(2023)年7月31日(月) 13:30~16:00
会場 小山市桑市民交流センター(多目的ホール)
対象 下都賀地区小・中・義務教育学校教員
(希望者:特別支援教育担当教員や通常の学級の担任等)

1 研修の目的・内容等

(1) 目的

事例等を通じた具体的な研修を行うことにより、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒に対する個に応じた支援の充実に資する。

(2) 内容

- ①講話 通常の学級における特別支援教育の推進
総合教育センター教育相談部 仁藤 裕子 指導主事
- ②分科会 課題解決に向けての班別協議

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

- ①栃木県の取組:栃木県教育振興基本計画2025(特別支援教育の充実)
- ②下都賀地区の取組:下都賀地区学校教育の重点
「一人一人の教育的にニーズに応じた特別支援教育」

(2) 通常の学級における特別支援教育の推進

本県における特別支援教育の基本的な考え方

- I 「子どもが自信を育むとともに周囲の人々と相互に支え合う関係を構築する」
～全ての子どもへの指導・支援の充実～
 - ・安心感を高める指導・支援
- II 「障害のある子どもが生涯にわたり自立し社会参画していく」
～障害のある子どもへの指導・支援の充実～
 - ・個別の教育支援計画を作成・活用

自信を育む



互いに支え合う関係を構築する

持っている力を最大限に発揮することができる



児童生徒を理解するために

① 一人一人をよくみる

- ・その子のよさ、得意なこと、好きなこと、努力しているところ
- ・今、できていること
- ・どうしても苦手なこと
- ・どんなときに困っているのか
- ・そのときの教員や友達とのかかわりはどうか

② 行動の背景や本人の思いを考える

- ・「困った子」ではなく「困っている子」
- ・どうしてそのような行動をしたのか、どのような思いだったのか



安心感を高める指導・支援

認め合う関係を育む

- ・一人一人の子どもを認める
- ・子ども同士の関係をつなぐ



分かりやすい環境を整える

- ・全体と部分の構造を明確にする
- ・情報を取り入れやすくする



障害のある子どもに対する指導・支援

学習面

- ・できていることを認め、強みを生かした指導方法で、実力を伸ばし評価される支援を

行動面

- ・適切な行動を増やすという視点から、望ましい行動を具体的に教え、できたら褒める指導を

対人関係

- ・場面や状況を説明しながら、相手の気持ち等を具体的にイメージさせる指導や支援を

3 本研修で学んだこと（参加者が記入した「研修の振り返り」より）

【講話】

- ・特別支援教育は、障害の有無にかかわらず、全ての子どもへ適切な指導・支援を行うということ、安心感を高め、自信を育み、一人一人のニーズへ対応する力が必要だということがよく分かった。
- ・講話の中の、「一人一人をよくみる」「できていることを広げる」「感情と行為を分ける」など、改めて考えさせられた。

- ・安心感を高めるために子どもを認め、自身を育み、持っている力を最大限に発揮することができるクラスを目指したい。
- ・「全体の児童への支援が児童の安心につながり、その上に特別な支援を重ねる」というお話にとても納得した。
- ・子どもたちが「やってみよう」「頑張ってみよう」という気持ちになるよう、環境を整えたり、指導を工夫したり、言葉かけを工夫したりするなど、安心感のあるクラスづくりに向け全力で頑張ろうと思った。
- ・「困った子」ではなく「困っている子」という視点の下、子どもの立場になって考え、何に困っているのかを想像し、理解を深めて欲しいという言葉がとても印象的であった。
- ・子どもたちは、困りながらもできることを一生懸命取り組んでいる。自分もそれに応えられるだけ頑張っていたか、反省した。
- ・保護者や学校の先生方とチームになって、子どものために指導・支援を考えていきたい。
- ・学級の子どもたち同士をつないでいくことで、困っている子どもたちがSOSを出しやすい環境を整えたい。
- ・学習活動で手が止まってしまう子どもに対して、「なぜやらないのだろう」と思ってしまうことがあった。しかし、やらないのではなく、「できない、やりにくい」と思っている可能性もあることを学んだ。子どもの苦手なことやできることを把握し、できる環境を整えていきたい。

【分科会】

- ・立場の違う先生方と話をすることができ、新たな考え方やそれぞれの立場での困り感を知り、どのような対策ができるのかを考えることができた。
- ・自分の悩みを聞いてもらえ、話の中からこれからの指導・支援についてのヒントをもらうことができた。
- ・同じことで苦労や悩みを抱えている先生と話ができて、勇気をもらえた。それぞれが担当している子どもにあった教具について情報交換ができた。
- ・協議を通して、先生方がそれぞれ工夫して支援していること、本人や保護者の困り感に寄り添った支援の必要性、担任だけでなく、学校や諸機関との連携をとりながらチームで対応することが大切であると再確認できた。
- ・協議の中でポイントとなったことが、よさを認めることと、学級での居場所をつくることであった。一緒に協議をした先生方のお陰で、2学期から取り組むことが具体的にイメージすることができた。

